

H22.12.24

化学物質の廃棄に係る注意

総合安全管理センター長
伊澤 達夫

日頃、化学物質の適正使用・保管管理・廃棄処理につきましてご協力いただきましてありがとうございます。

本学では、研究室名で不要となりました化学物質の廃棄に関しましては総合安全管理センター会議で定めたルールに従い、適正処理をお願いしておりますが、先日、都内の大学におきまして不幸な事故が発生いたしましたので、ここに改めましてルールを再確認されますように注意勧告いたします。

特に年末・年度末に化学物質の整理を予定されておられる研究室におかれましては無害化のための自前処理を実施される前に、MSDS等で廃棄方法を十分に検討した上で、指導教官の指示のもと安全を確認しながら実施されますようお願いいたします。

「参考」

T大で薬品浴び3人けが

22日午後、東京・目黒区のT大学の実験室で大学院生らが、薬品などの廃棄処理をしていたところ、いきなり爆発が起き、3人が、顔などにやけどをするけがをし、実験設備（ドラフト）のガラス製扉が割れる事故が発生しました。

22日午後3時15分頃、目黒区のT大学駒場2キャンパスの4階の実験室で、大学院生らが薬品などの廃棄処理を行っていたところ、いきなり爆発が起きました。この爆発で、25歳の大学院生が飛び散った液体や割れたガラス器具の破片を浴びて顔にやけどなどを負ったほか、近くにいた23歳の大学院生と22歳の大学生もけがをして、病院で治療を受けています。

警視庁やT大学によりますと、当時、実験室では准教授1人と10人余りの大学院生らが必要のない薬品などを無害なものにする処理をしていて、25歳の大学院生が金属リチウム、およそ100グラムをバケツの水に入れたところ、いきなり爆発したということです。警視庁と消防では、金属リチウムの量が多かったため、大量の水素が発生し、引火して爆発が起きた可能性があるとのことです。

本件に関する問い合わせ先
大岡山・田町地区環境保全室